北海道日高地域公共交通活性化協議会

令和4年4月1日設置

概　要

日高地域の人口は昭和35年（1960年）をピークに漸減しており、令和3年（2021年）1月1日時点は63，259人となっており、地域で暮らし続けるための生活機能の維持・確保が課題になっている。日高地域における唯一の鉄道路線であったJR日高線は、令和3年（2021年）4月に廃止され、当地域の広域公共交通は、各町を結ぶ国道などの主要幹線道路を中心に運行する乗合バスのみとなっており、地域の公共交通はバスなしには成り立たない状況になっている。日高地域のバスについては、広域の国庫補助路線は4路線、札幌・千歳・苫小牧方面との都市間バスは4路線あり、いずれも2事業者で運行している。地域の要望に対応していく必要がある一方、人口減少や新型コロナウイルス感染症拡大の影響等に伴う利用者の減少などにより、バス事業者の減収減益に歯止めがかからない状況が続いており、主要幹線道路を運行している地域間幹線系統の維持・確保に係る懸念など、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増していることから、地域住民の生活を支え、また持続可能な将来の交通体系を構築するため、地域のマスタープランとなる「日高地域公共交通計画」を作成する。

○地域公共交通の現況

・道南バス：高速ペガサス号、日高沿岸線（苫小牧～静内間、静内～浦河老人ホーム間、苫小牧～平取間）、日高沿岸線・富内線（平取～静内間）
・JHB：特急とまも号、高速えりも号、高速ひろおサンタ号、日勝線（静内～様似間、様似～広尾間、上野深～浦河老人ホーム間）

○地域公共交通の課題

・生活機能施設の集積状況に対応する利用実態に即したバス路線の最適化
・交通体系を維持するためのバス運転手の確保
・広域交通と町内交通との乗継ぎ空間の確保や待合所の利用環境整備の検討

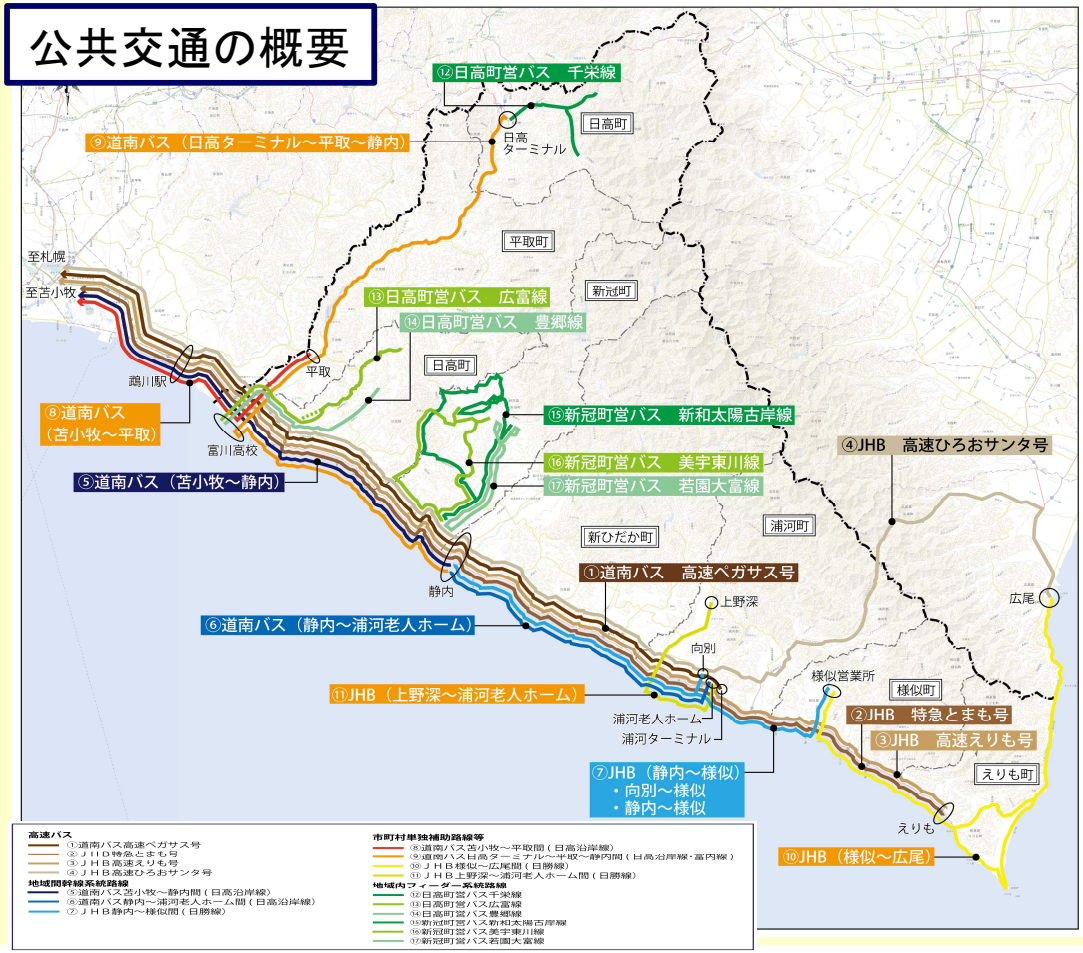
○調査の主な内容

・路線バス乗降調査の実施
・地域住民のニーズ調査（アンケート調査）　・来訪者Webアンケート調査

○地域公共交通活性化協議会開催状況

4月1日　　第1回協議会を開催
　　・協議会の各種規程、調査事業・スケジュール・予算の承認
8月25日　第2回協議会を開催
　　・業務計画書、アンケート調査内容の承認
12月9日・12月23日　第1回分科会及び第3回協議会
　　・スケジュール、アンケート調査結果及び計画の方向性の承認
1月下旬　第2回分科会及び第4回協議会
　　・計画素案の承認

公共交通の概要



北海道日高地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【地域概況整理】

・地勢・人口分布等の概況、主要施設や公共交通の現況、上位・関連計画等の整理

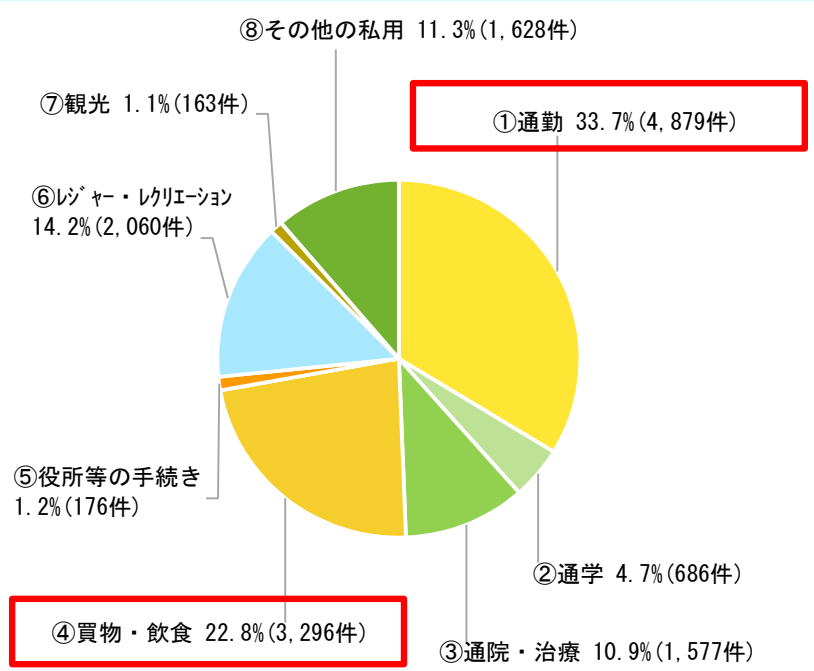
【地域公共交通実態調査】

・住民における通勤・通学・通院・買い物等生活圏をはじめとした移動の実態を調査し、ニーズを把握することで、公共交通体系の構築にあたっての基礎資料を得るために実施した。

（1）住民アンケート調査

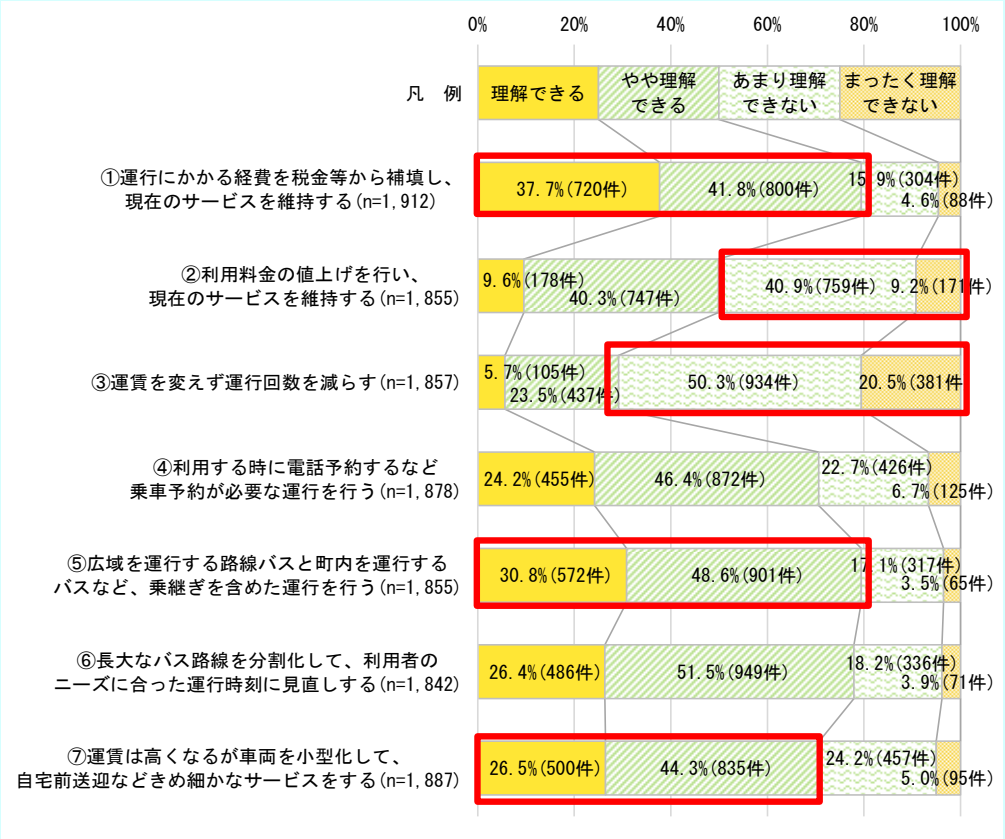
・高校生と65歳以上の住民を対象に12，470世帯（1世帯3票）に対して送付。

・アンケートの結果、通勤や買い物等に公共交通を利用している町民が多く、直近1週間の外出の目的について、通勤33.7%となっており、買物・飲食も22.8%と比較的多い。
また、買物・飲食、レジャー・レクリエーションについては週2日程度の頻度となっている。



今後の公共交通を維持するための方針

・今後の公共交通を維持するための方針として、ほぼすべての選択肢で「理解できる」が、7～8割程度となっている一方、「運行回数を減らす」は7割、「利用料金の値上げ」については5割が、「理解できない」と回答しており、これらを考慮しながら現在のサービスを維持しつつ、交通体系の最適化を図ることが必要である。



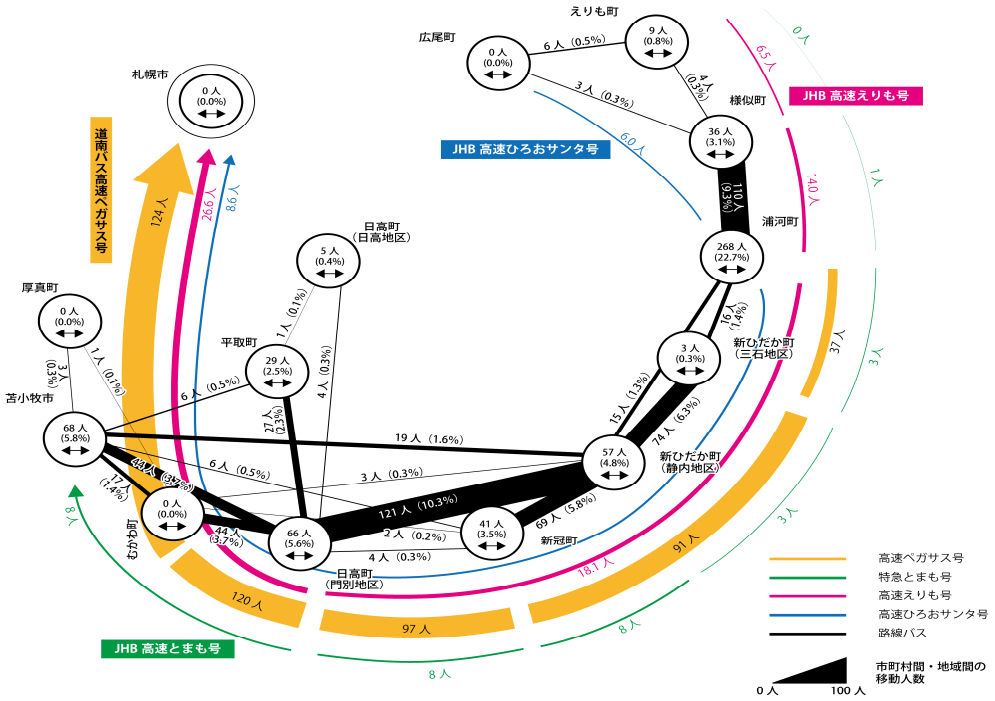
北海道日高地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

（2）公共交通利用者に対する乗降調査

・14路線の各種公共交通の利用者に対する乗降調査を実施。
バス乗降調査結果を総括すると、以下の4エリアにおいて路線バスによる利用が多い結果となった。なおここでいうパーセントは、全路線バス（高速バスを除く）の全利用者数に占める割合となる。

・浦河町内で22.7%
・新ひだか町（静内地区）を中心とする日高町（門別地区）、新ひだか町（三石地区）、新冠町との間で、22.4%
・日高町（門別地区）を中心とする新ひだか町（静内地区）、苫小牧市、むかわ町、平取町との間で20.0%
・浦河町と様似町との間で9.3%　　計74.4%

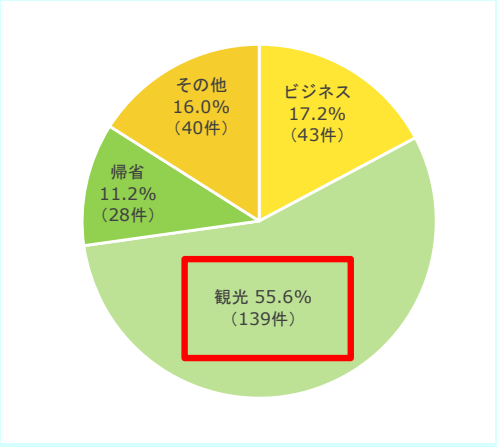


D（降車）＼O（乗車）	1 苫小牧市	2 厚真町	3 むかわ町	4 日高町（門別地区）	5 平取町	6 日高町（日高地区）	7 新冠町	8 新ひだか町（静内地区）	9 新ひだか町（三石地区）	10 浦河町	11 様似町	12 えりも町	13 広尾町	降車人数	乗降客数
1 苫小牧市	68	3	7	21	4	0	4	10	0	0	0	0	0	117	231
2 厚真町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
3 むかわ町	10	0	0	20	0	0	1	1	0	0	0	0	0	32	67
4 日高町（門別地区）	23	0	24	66	17	3	1	59	0	0	0	0	0	193	375
5 平取町	2	0	0	10	29	1	0	0	0	0	0	0	0	42	92
6 日高町（日高地区）	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	14
7 新冠町	2	0	1	3	0	0	41	21	0	0	0	0	0	68	163
8 新ひだか町（静内地区）	9	0	2	62	0	0	48	57	40	9	0	0	0	227	415
9 新ひだか町（三石地区）	0	0	0	0	0	0	0	34	3	7	0	0	0	44	96
10 浦河町	0	0	0	0	0	0	0	6	9	268	68	0	0	351	677
11 様似町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	36	1	3	82	189
12 えりも町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	4	16	28
13 広尾町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	9
乗車人数	114	3	35	182	50	9	95	188	52	326	107	12	7	1,180	2,360

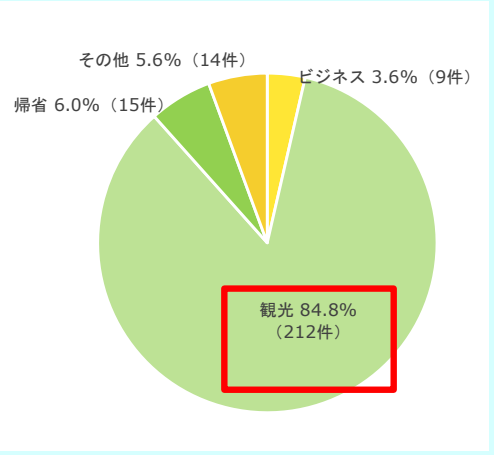
（3）来訪者Webアンケート調査

・NTTドコモ契約者へアンケートを配信し、道内・道外からの来訪者各250名に来訪の目的や頻度等の実態を把握するため、Webアンケートを実施した。
・アンケートの結果、観光での来訪が多数で、移動手段は、道内者は自家用車、道外者はレンタカーの利用が多く、公共交通機関を利用しない理由としては、「自家用車（レンタカー）が便利」との回答があった。

＜道内来訪者＞



＜道外来訪者＞



北海道日高地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

【計画案の構成】

・「はじめに」、「地域の概況」、「地域公共交通の現状」、「地域の移動特性・ニーズ」、「現状と課題、計画の目標、目標を達成するための施策」の構成で計画案の作成を進めており、２月頃に計画素案を協議後、パブリックコメントを経て、年度末又は年度当初に日高地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。

※主要路線のみ記載

【特急とまも号】、【高速ペガサス号】、【高速えりも号】、【高速ひろおサンタ号】

・当該路線は、通院や通学など地域住民にとって、欠かすことの出来ない生活路線であるものの、利用者数の減少に伴い収支率の低下が続いている。

・今後も現在の交通体系を維持していくため、住民等の移動実態やニーズを踏まえた公共交通サービスの最適化に向けて検討していく。

【日高沿岸線（苫小牧～静内間）、（静内～浦河老人ホーム間）、（苫小牧～平取間）、宮内線（日高ターミナル～平取～静内間）】

・当該路線は、通院や通学、買い物など地域住民にとって、欠かすことの出来ない生活路線である一方、利用者数の減少に伴い収支率の低下が続いている。

・今後も現在の交通体系を維持していくため、並行する路線の運行内容や住民等の移動実態・ニーズを踏まえた公共交通サービスの最適化に向けて検討していく。

【日勝線（静内～様似間）、（向別～様似間）、（様似～広尾間）、（上野深～浦河老人ホーム間）】

・当該路線は、通院や通学、買い物など地域住民にとって、欠かすことの出来ない生活路線である一方、利用者数の減少に伴い収支率の低下が続いている。

・今後も現在の交通体系を維持していくため、住民等の移動実態やニーズを踏まえた公共交通サービスの最適化に向けて検討していく。

北海道日高地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

●事業実施の適切性

計画どおり適切に事業は実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

・事業は、計画どおり実施されている。
・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
・複数地域全体の地域公共交通計画を策定するのは調整に労力を伴うが、区域内の状況を踏まえつつ、計画を確実に策定いただきたい。
・なお、その際には、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。